月間報告書　2026年4月分

学籍番号　　留学先　サンパウロ大学

氏名　　留学期間　2026/04/01～2026/09/19

年次　3年次　　留学区分　派遣留学

Ⅰ．受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	Literatura Japonesa Ⅲ	日本文学Ⅲ	1080	授業
2	Aspectos da Cultura Brasileira Ⅰ	ブラジル文化論Ⅰ	720	授業
3	Língua e Culutura Brasileiras para Intercambistas Internacionais na USP	USP留学生のためのブラジルの言語と文化	900	授業
4	Intercompreensão em Línguas Românicas	ロマンス語諸国における相互理解	480	授業
5	Fonética e Fonologia do Português	ポルトガル語の音声学と音韻論	480	授業

Ⅱ．授業内容

No.1

【3月分】

文豪の小説などから日本の生活や歴史を読み解いたり、文豪たちの生涯について学んだ。時にグループディスカッションがあり、ポルトガル語と日本語を混ぜながら参加することができる。

【4月分】

今月は芥川龍之介の「河童」を学びました。この授業は開始一時間は先生が文豪の生涯や、作品についての説明してくれるので、残りの一時間はグループワークでお互いに言い合ったり、作品の中で出てくる日本語特有の表現や単語について参考文献を探し、考えを深めレポートを書いて提出します。

授業のレベルは非常に高く、文豪作品を学ぶので日本人でも理解するのが難しい言葉や文脈、表現が出てくることが多く、作品の時代背景を考えて読みとく必要があるので作品だけでなく、その作品に関する宗教の考えや、論争、政治関与、建築の資料などを使って授業をします。

No.2

【3月分】

毎回教師が変わり、その教師の専門分野になぞりながらブラジルの歴史や、地域による違い、発展の仕方などを教わりました。

【4月分】

今月はストライキがあるので対面は受けれないのですが、オンラインで参加することが出来ました。

今回はファベラというブラジルに存在する貧困地区について学びました。先生が実際にファベラで生活と研究をしており、なぜファベラというものが発生するかや、ファベラに住んでいる人たちはどのような生活を送り、どういう職についているかなどの内容です。ブラジルは貧富の差が激しく、生まれた場所が貧困家庭だった場合公立の学校はありますが教師たちはほぼ授業をしなかったり、人数が多くてがまわらないなどの理由で行き届いた教育がされておらず、働きに出る人が多いです。しかし住んでいる家がファベラにあるというだけで雇ってもらえないことが多く、低収入の仕事に就くしかありません。これらを解消する案はなく、負のループに陥っているのが現状です。

No.3

【3月分】

週二回のオンライン授業で、毎回学ぶ内容が少し変わるのだが、主にブラジルの地理に関することや、ポルトガル語での手紙の書き方、どのようなポルトガル語を使うかなどを教えてくれます。

【4月分】

今月は先月に引き続き日常会話で使うポルトガル語や、手紙の書き方、道案内をする際に使うポルトガル語などを教わりました。

No.4

【２月分】

初回授業のため、自己紹介と中国語や韓国語などの多言語を比較し、発音や字体の違いについての授業

【３月分】

中国語とポルトガル語の発音が似ていることから、中国語の発音からポルトガル語における因果関係を学んだ。

No.5

【２月分】

発音や、音韻論、音声学がどのようにしてできるかについてと、音の成り立ちについての授業

【3月分】

人体の仕組み（口、耳、肺）を通してどのようにして音が出るかや、発音の仕方などを学び、多言語との違いなども調べます。

Ⅲ．生活編

4月分に2月分を追加して、5月分に3月分を書きます。

【２月分】

2月5日に無事ﾌﾞﾗｼﾞﾙ・ｻﾝﾊﾟｳﾛに到着し、空港で友達が待っていてくれたので迷うことなく私が住むｼｪｱﾊｳｽに到着することができました。ｼｪｱﾊｳｽは大学付近にあり歩いて40分ほどで通うことができます。近くにはｽｰﾊﾟｰや、ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞﾓｰﾙなどの建物もあり、治安も良いので生活に困ることはありません。また、このｼｪｱﾊｳｽには多くの留学人や現地の方がおり、共同生活を通じて英語やﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語などを日常会話から学ぶ日々を送っています。

世界各国から集まった留学生と意見交換を行うことで仲良くなり、一週間に一度集まって各々の国の料理を食べたり、出掛けるなどをするようになりました。ｻﾝﾊﾟｳﾛ大学(USP)には日本語ｺｰｽがあるため、日本語を学ぶ生徒が多く在籍しており、私は細かな日本語のﾆｭｱﾝｽを伝え、代わりに現地のﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語や、ｽﾗﾝｸﾞなど

月間報告書　2026年4月分

学籍番号		留学先	サンパウロ大学
氏名		留学期間	2026/04/01～2026/09/19
年次	3年次	留学区分	派遣留学

を教わっています。

また、先日はｻﾝﾊﾟｳﾛのｶｰﾆﾊﾞﾙを実際に体験しました。一年に一度しかない行事のため、毎日いたるところでｶｰﾆﾊﾞﾙが行われており、街中が熱気とｴﾈﾙｷﾞｰに満ち溢れています。私が行ったｶｰﾆﾊﾞﾙは夜7時から朝の5時までの長時間なのですが、目の前で行われているｻﾝﾊﾞや、ﾃｰﾏに沿ったﾀﾞﾝｽがｸﾞﾙｰﾌﾟごとに違うのでとても見ごたえがあり眠気を感じる暇もないほどに盛り上がり、一生に一度の素晴らしい経験をしました。

【4月分】

現在USPはｽﾄﾗｲｷが行われており、開始から1ヵ月が経ちました。その間校舎の扉の前に椅子などが置かれ授業が出来ない状態です。

しかし、この予期せぬ自由時間を無駄にしたくないと思い、今月は自分から積極的に動くように心がけました。まず、周囲の仲間を巻き込んで映画鑑賞会を開いたり、日本の味を知ってもらうために「日本料理を作る会」を主催したりしました。ﾒﾆｭｰはお好み焼きと唐揚げです。ﾌﾞﾗｼﾞﾙには豚ﾊﾞﾗがないのでﾍﾞｰｺﾝを薄く切るなど現地の食材を工夫しながら作りました。

大学の建物内には入れませんが、勉強の習慣を崩さないよう、学外の図書館などに足を運んでいます。そこでは、自習しに来ているﾌﾞﾗｼﾞﾙ人の学生に自分から声をかけ、その日に学んだﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語の使い方が合っているかﾁｪｯｸしてもらったり、より自然な言い回しを教えてもらったりしています。

授業がないという異例の事態ではありますが、自ら行動することで、時間を無駄にしてないよう心がけています。ｽﾄﾗｲｷというﾊﾌﾟﾆﾝｸﾞさえも留学の貴重な一部と捉え、残り2ヵ月も頑張っていきたいです。

・滞在許可書については留学生用のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝが二月にあり、そこで警察の予約を取ってそのあと警察に行き申請をして許可書がもらえますが、予約がとても埋まっており取得できるのは2,3か月後になります。その際も留学生をｻﾎﾟｰﾄしてくれる人が一緒についてきてくれるので何も心配はありませんでした。

・USPには寮があるのですが部屋数が足りておらず住むことは厳しいので、前もって留学生をｻﾎﾟｰﾄしてくれる大学の期間にﾒｰﾙを送りおすすめの宿を教えていただきました。Butanta Shareという駅近くで大学から40分の距離のところを利用しています。このｱﾊﾟｰﾄは個室ありのｼｪｱﾊｳｽで、設備がとてもよく、24時間警備の方がいるのでとても安全で多くの留学生やUSPの学生が暮らしており、このｱﾊﾟｰﾄを通して沢山の友達を作ることが出来ました。

・授業開始後一週間ほどはお試し期間で、様々な授業を見学することが出来、その後専用ｻｲﾄから履修登録をすることが出来ます。必修の授業などはなく、自分の好きなように授業を選ぶことが出来ます。

ｾﾞﾐの教員と話し合い定期的にﾚﾎﾟｰﾄを書いて提出することで単位認定をしていただけることになりました。

①ﾌﾞﾗｼﾞﾙでの早期の外国語教育について観察とか、情報を集めて報告

②日本語ｸﾗｽ観察、何人がどこで行き詰るか、どういう人がﾏｽﾀｰするのが早いかなど報告、ﾒﾓを毎回とる

③自分の語学のﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽの日誌つける(週1)

*CEFRの指標を使って自分がどのﾚﾍﾞﾙなのかもｺﾒﾝﾄしたりする

月間報告書　2026年6月分

学籍番号　　留学先　サンパウロ大学

氏名　　留学期間　2026/04/01～2026/09/19

年次　3年次　　留学区分　派遣留学

Ⅰ．受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	Língua e Culutura Brasileiras para Intercambistas Internacionais na USP	USP留学生のためのブラジルの言語と文化	720	授業
2	Aspectos da Cultura Brasileira Ⅰ	ブラジル文化論Ⅰ	240	授業
3	Fonética e Fonologia do Português	ポルトガル語の音声学および音韻論	480	授業
4	Literatura Japonesa Ⅲ	日本文学Ⅲ	1440	授業

Ⅱ．授業内容

No.1

授業が再開され、過去にしていた授業の活用や単語の振り返りなど。習った単語を使いながら文章を構築したり、写真を見て人物が何をしているかなどを説明するなどをしました。

No.2

過去の授業ビデオを元に振り返りながら、一人の教師を各自で選びその教師が話した講義内容についてレポートを書き提出する。

私はファベーラという貧困地区に興味があったため、観光地区にあるファベーラ同士を比較し、片方は栄えているのに対してもう片方はなぜ栄えてないかをデータをもとにレポートを書きました。

No.3

音のイントネーションについて図と、耳の内部構造を参考に音声の成り立ちについて学ぶ。

No.4

過去に途中まで習っていた芥川龍之介の「河童」について再度学びなおし、その後グループごとに同じ議題である「上海」という作品についてグループディスカッションをする。このグループディスカッションで成績が決まるため、一カ月前からグループごとにこの作品の理解を深め何を質問するかなどを決めました。一回の授業につき２グループが討論するため、６月中の授業はほぼずっとこの話題でした。

Ⅲ．生活編

今月は学生たちだけでシュハスコを企画し、日本流の焼き鳥を作って振る舞ったところ、現地のみんなに大好評で食を通じた最高の交流ができました。また、大聖堂ツアーに参加して、普段は見られない聖堂の内部や美しい建築をじっくり見学できたことも、建築好きの私にとって深く印象に残っています。

さらに、ワールドカップが開幕したことで街全体がサッカー一色になり、どこに行ってもサッカーの話ばかりというブラジルの凄まじい熱量を肌で感じました。試合当日は、サンパウロにある「ジャパン・ハウス」に日本人留学生たちと集まって観戦したのですが、会場全体がものすごい熱気に包まれて本当に楽しかったです。

月の後半には、ずっと行きたかった世界遺産のレンソイスへの旅行も実現しました。授業以外の時間を最大限に活用し、ブラジルの文化や大自然の魅力にどっぷり浸かる最高に熱い1ヶ月になりました。

「ゼミ内容」

①自分の成長レベルをCFERをもとに考えてみたところ行く前は読み取りや聞き取りがA1レベルだったのに対し、現在はB1レベルだと思っています。ちょっとずつではありますが最初来た時に比べて単語が分かるようになってきたのでみんなが何を言っているか理解でき、会話にも参加できるようになりました。

②日本語とポルトガル語の違いは沢山あるのですが、よくブラジル人に聞かれることが、「日本語は悪口が少ない」ということです。ポルトガル語の悪口を日本語に変更するとほぼ「バカ」という意味になってしまいポルトガル語における細かなニュアンスを伝えるほどのぴったしの悪口が日本語にはありませんでした。

③ポルトガル語を通して慣用表現は日本に限らず、どの国でもその国の文化や、歴史に基づいて作られていることに気づきました。例えば、日本の慣用表現は「目がない」や「頭が下がる」などこれをそのままポルトガル語に訳して伝えると周りから驚かれました。